MAMIYA CAMERA-PHOTO LIFE SUPPORT

マミヤカメラクラブ

マミヤカメラクラブはマミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会いただける写真クラブです。マミヤカメラクラブ会報誌（Mamiya Gallery）の発行（原則年２回）。プロ写真家による撮影会・勉強会・セミナーの開催。web ギャラリーで会員の作品展示。マミヤ製品修理・点検料金の割引き等と会員特典もたくさんあります。マミヤカメラに関する情報、会員相互の親睦と写真技術向上をめざし、素晴らしい写真の世界をご堪能ください。

入会費用

入会金　1000 円（税込）
年会費　3000 円（税込）ご入会月より 1 年間。
※但し 2 年分の年会費をご入会時にお納めください。

特　典

■マミヤカメラクラブ会報（Mamiya Gallery）の発行。
■クラブ撮影会の開催。
■勉強会・セミナーの開催。
■ホームページ上に会員作品ギャラリーの開設。
■マミヤ製品修理・点検料金の割引き。
■会員証、オリジナル会員バッジ提供。
■オリジナル会員名刺制作（有料）。

●製品・修理に関するお問い合わせは、サービス受付へご相談ください。

●修理をはじめオーバーホール、清掃等を承ります。
●操作上の疑問にもお答えしています。

Phase One Japan 株式会社
物流センター内サービス受付
〒385-0052 長野県佐久市原 547
TEL.0267-62-8036 FAX.0267-62-8137
営業時間　9：00〜17：50　土、日、祝日は休業

マミヤカメラクラブ事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 3-39-14 ワイズビル 株式会社ワイズクリエイト内
TEL.03-5689-2776 FAX.03-5689-2786
E-mail :info@mamiya-club.com

●マミヤカメラクラブの入会お申込み等お気軽にお問い合せください。
●撮影会・イベントのお申込み・お問い合せを承ります。
●下記、ホームページでも詳しくお知らせ致しております。是非ご覧ください。

マミヤカメラクラブホームページ　http://www.mamiya-club.com/

●株式会社ワイズクリエイトでは、下記のような業務を行っています。

◎フェーズワン製品・大中判カメラ販売を致しています。
◎撮影アクセサリー、ザックの販売を致しています。
◎プロラボ現像・プリントを承ります。
◎撮影会・ワークショップ・セミナーを開催しています。

ワイズクリエイトは写真を通じて人と人、人と自然との コミュニケーションを確立する事を目的とするフォトオフィスです。
大中判カメラ専門ショップを展開、自然写真家、山岳写真家による写真セミナー、撮影会の開催、写真集の出版、写真レンタル、各種制作業務等、写真に関するソフトとハードあらゆる業務を行います。
www.yscreate.co.jp

青い空と白い雲に拘って
「蝶」を撮影する写真家・黒柳昌樹さんに迫る。
八重山と蝶をこよなく愛するその理由は？

黒柳　昌樹（くろやなぎ　まさき）
1969年東京・渋谷生まれ。沖縄の八重山諸島を主なフィールドとして教育用の動植物や自然写真を撮影する傍ら、広告写真も手掛ける。幼少の頃から自然や昆虫に興味があった事もあり、現在はライフワークとして蝶をはじめとする昆虫の飛翔写真にも力を入れている。魚眼レンズとストロボを使用して撮影するワイドマクロの手法を用いた昆虫写真で独自の世界を構築。現在、オリンパスの写真投稿サイトFotoPus（フォトパス）の虫コミュ管理人としても活躍中。SSP日本自然科学写真協会理事。オリンパス・ズイコーデジタルアカデミー講師。

3歳の時から父の背を追って昆虫写真を撮影している愛娘・優樹ちゃんとの親子写真展「ミラーレス★デビュー！　黒柳昌樹X黒柳優樹」は大きな話題となりました。父親の撮影を見よう見まねで習得した撮影技術はかなりの腕前で優樹ちゃんファンも多いとか。現在小学三年生ですが、これからが楽しみな未来の女流カメラマンです。

蝶の写真を撮影する必須アイテムは高性能デジタルカメラと魚眼レンズ、お手製のディフュザーが被さったストロボ。まさしく三種の神器。

今回の巻頭企画は八重山と昆虫の飛翔写真、特に蝶を長年追い続けている写真家・黒柳昌樹さんにご登場頂きました。黒柳昌樹さんが何故、蝶に拘って写真を撮り続けるのか？また蝶の飛翔撮影の極意は？などお伺いしてみました。これを読めばもしかしたら貴方も蝶の撮影が出来るかも・・・・？。（木戸）

写真・カメラとの出会について――

写真（カメラ）との出会いは大学生の時です。学部が生物学部で研究等でどうしても写真が必要になったのです。それも昆虫が主な被写体だったので、当時のカメラ（オリンパスペンハーフ）では上手く撮影が出来ずに、昆虫写真家の海野和男さん、栗林慧さんの本などを参考にし、先輩から譲ってもらったペンタックス ME スーパーという一眼レフで撮影を始めました。ところがこのカメラに付いていた標準レンズ 1 本ではやはり上手く撮影出来なかったのです。参考書を何冊か入手して徹底的に独学で勉強しました。これにより、私の持っていた昆虫の生態知識と本で学んだ撮影技術が上手くかみ合い昆虫写真が撮れる様になりました。

プロ写真家になったのは――

大学二年生の時には、私の撮った昆虫写真が欲しい、使いたい等の要望がかなりあり、撮影した写真をフォトライブラリーに預けるようになりました。これが昆虫写真で稼いだ初めてのお金になったと思います。大学卒業の時、丁度バブル期で家業の工場がかなり忙しく、私も手伝う様になりましたが、その後、直ぐにバブルが弾けて家業がダメになってしまいました。そんな時でもフォトライブラリーの売上もかなりあり、更にカメラ雑誌からの出稿依頼もあったのでプロ写真家としてスタートを切りました。

そして沖縄が好きだったので、その頃から石垣島に行って写真を撮るようになったのですが、「海人（うみんちゅ）」Tシャツで有名になった地元の会社社長と知り合い、その会社の商品に関連する写真を撮影する様にもなり、更に自身の好きな八重山の魅力ある写真や蝶の写真も沢山撮ることもできました・・・これが約 10 年も続いたのです。

蝶を愛する理由は――

よく、沖縄でも地元の人に間違われるのですが、生まれは東京の渋谷なんですよ。子供の頃には近くに在った有栖川公園で虫取りに明け暮れ、それが大学も生物学部に入学した理由かもしれませんが、飛んでいる蝶が特に好きでした。子供の頃の「楽しみ」の延長かもしれませんね。また、蝶は網で捕まえてカゴに入れてもあまりキレイで無くてやっぱり飛んでいる姿が美しいと思っていましたね。

蝶撮影の極意は――

魚眼レンズで蝶を撮影しています。レンズ先端から 5 センチ位の位置で撮影していますが、それはかなり難しいことで写真をある程度知っている人ならばそんなことはやらないと思いますよ。これは子供の頃に虫取りを沢山やった経験と、昆虫の生態知識、更にカメラの知識があって出来ることと思っています。

また、蝶や昆虫だけを撮ってもどれも同じになってしまうので、魚眼レンズや広角レンズを使い背景を活かすことで、記録から作品としての写真に変わると思っています。背景の青い空と白い雲、森や海、人や家などがあると、どこで飛翔しているのが分かりますからね。

因みに、現在の基本撮影機材は、高性能デジタルカメラ＋魚眼レンズ（広角レンズ）＋自作のディフュザーを被せた小型ストロボのセットです。機材は小型軽量で取り回しの良いのが必須条件ですかね。

撮影に際してですが、いくら沢山の蝶が飛んでいても全部を撮ることは出来ません。人間と同じで、蝶の中にも気持ちとろい個体がいて、ざっと見渡して「あいつならば行ける！」と狙いを定めることも経験上分かるようになりました。また、卵を産もうとしている蝶は植物間を次々に飛んで行くのですが、次にどの植物に飛ぶかを予測して待ち構えて撮ることも必要です。予測は８割位当たっていますよ。ただ闇雲に蝶を追いかけていたのでは良い写真は撮れませんね。

ギンヤンマ（トンボ）などは縄張りがあって侵入者があると追いかける習性がありますが、その後元の場所に戻ります。その時はかなり無防備なので、行動を予測する事で上手く撮影出来ますよ。

ストロボ撮影で蝶に影響があるのではと聞かれますが、太陽光の方が遙かに強い光なので発光時の反応は、それほどありません。むしろ音に対する反応の方が強いと感じます。

カバマダラ
竹富島

ウスキシロチョウ
竹富島

ヤエヤマカラスアゲハ
石垣島

ツマベニチョウ
沖縄本島

リュウキュウムラサキ
竹富島

蝶の種類と撮影地は？——

日本には約 250 種の蝶が生息していますが、私は沢山の種類を撮ることを目的としていません。あくまで飛翔しているキレイな蝶を撮りたいと思っています。ですから種類には拘らず身近にいる蝶も沢山撮りますよ。例えば東京 23 区内でも 20~30 種の蝶が見られますので、近くの公園で撮影することもあります。また今年のように台風が多い時などは沖縄の蝶が東京で見られることもありますので楽しみですね。

海外撮影は親戚が住んでいた事もあって台湾には 20 回ほど取材に出掛けています。台湾は九州ほどの面積ながら高い山もあったりで、熱帯性、高山性の蝶など約 350 種が生息しています。因みに蝶の見分け方ですが、（1）色（2）大きさ（3）飛び方の 3 つで瞬時に判断しています。

蝶（昆虫）以外の写真撮影は？——

プロ写真家としては蝶を含む昆虫撮影がメインですが、その他に植物、鉱物、水中写真なども撮影します。特に八重山の撮影経験からダイビングと小型船舶の免許を持っていますので、水中写真は趣味的要素もあり好きですね。

撮影は広告会社、観光協会、カメラメーカーなどのクライアント依頼が 50%、自分の作品撮影が 50% です。作品はフォトライブラリー経由で教科書に使われたことも多々ありますが、一時「虫が怖い」との理由で教科書から昆虫写真が無くなったこともありましたが、今は復活しているので一安心しています。

フィルムとデジタルカメラの違いは？——

デジタルカメラを使い出したのは 2006 年頃からですから、決して早いほうでは無いと思います。フィルムでは精々 ISO400 感度での撮影でしたが、デジタルだと ISO3200 でも充分に使え、更にカードへの書き込みも早くなって桁違いにシャッター数は増えました。

また、新たな撮影領域として蝶の背景に夕暮れの景色を入れたり、夕方しか飛ばないトンボの撮影など可能になりましたし、フィルムでは難しいとされたホタルの撮影も簡単になりました。ただ撮影技術を必要とする星の写真などはアマチュアカメラマンでも撮影出来る様になって、仕事として成立しない分野も出現したのは事実です。

コスト的には今まで掛かっていたフィルム代、現像代が必要無くなりましたが、その分、撮影後に自分で RAW 現像をしなければならないことも発生しました。撮影カットが多くなった分大変ですが、バッチ処理（パソコンでひとつの流れのプログラム群を自動実行）を利用しながら頑張っています。ただ、秒間 60 駒撮影時などは、どのくらいのカットで撮影が出来たか記憶のあるうちに処理しなければならないので、撮影後がより大変になることもあります。

写真展について？——

自分の作品を発表する場として写真展は重要と考えています。特にカメラの進化に伴い、撮影方法も変化するので新たな作品を発表することが出来ます。今後もネットでの情報発信と共に積極的に取り組みたいと思っています。

クロアゲハ
西表島

写真教室について？――

昆虫写真を撮りたいと思っているアマチュアカメラマンは多いと感じます。特に中高年の人達が多く、テーマを「飛翔写真」としています。教室前に機材アドバイス、現場では蝶の習性や飛び方を教えて「ここで待っていて下さい」などのアドバイスをして「初めて飛翔写真が撮れました」と喜ばれることも多いです。

また、多くの子供達に蝶を見たり撮ったりする楽しさを教えて行きたいと思っています。

今後の活動について？――

暖かいところを好む蝶だから、環境の変化もあると思いますが、東京近郊でも蝶が増えていると感じます。また各地にビオトープ等が増えて東京に居なかった蝶が戻って来ていることもあります。都会で頑張っている蝶などの昆虫をこれからも積極的に撮影して行きたいと思っています。

そして、子供達には昆虫採集をしてもらい生き物の命の大切さを学ぶことが出来る様になっていって欲しいと思います。

2017年5月30日～6月3日に開催した「ミラーレス★デビュー！　黒柳昌樹x黒柳優樹」の会場スナップと写真展案内はがき。会場には黒柳昌樹さんの作品が使われている教科書等も展示されていました。

「海人（うみんちゅ）」で有名な株式会社海人工房のパンフレット。約10年間に及びこの会社のパンフレット写真も担当していました。自然写真のみならず製品写真も撮影していました。

日本カメラ誌で「ボディの進化がレンズの潜在能力を引き出した」と題して執筆した記事。カメラ雑誌社からの出稿依頼にも対応しています。

《黒柳昌樹さんの最新情報が確認出来る「八重山蝶瞰図」》

黒柳昌樹さんはご自身の最新情報を伝えるために、「八重山蝶瞰図」という名称のホームページを立ち上げています。内容は最新の書籍や写真展の紹介、使用機材紹介、作品販売など多岐にわたります。もちろん、ご自身の作品を紹介するギャラリーも下記の通り豊富です。是非ご覧になってください。

◆ギャラリー 1 ……豊かな自然の中で青空に舞う蝶達を集めてみました。
◆ギャラリー 2……武蔵野に舞う蝶達。
◆沖縄タウン……杉並区　和泉明店街の街写真。
◆壁紙コレクション……蝶や天体、風景など。
◆八重山あれこれ……八重山での写真満載。
◆ゴミゼロー眼レフ……オリンパスさんのゴミゼロー眼レフで撮った写真。

八重山蝶瞰図へはQRコードで

http://yaeyama.icurus.jp

《カメラマン 2019 カレンダーシリーズ 23　黒柳昌樹「胡蝶の舞」》

月刊誌「カメラマン」で活躍する写真家たちのカレンダーシリーズ。
(a) 壁掛ヨコ型 (b) 壁掛タテ型 (c) 卓上ヨコ型の選べる3タイプ。
2268 円（税込）。

蝶の姿が最も美しく見える飛翔写真のうち、主役が浮かび上がるポートレート的な作品を集めました。その中で、3 月から 10 月は実際の季節に沿った種類を、1 月、2 月、11 月、12 月は沖縄で周年見られる種類をセレクトしています。（黒柳昌樹）

ご購入はQRコードで月刊カメラマンへ

《黒柳昌樹　書籍紹介》

生き物の決定的瞬間を撮る―
黒柳昌樹（共）
Amazon 価格 2376 円
○プロフェッショナルの超瞬間ギャラリー○新しいカメラ ＆ 機材を使った「決定的瞬間」の撮影テクニック○フラッシュ、LED、特殊機材、新しい画像処理○被写体の決定的瞬間に遭遇する確率アップ

沖縄空中散歩 Kindle 版
黒柳昌樹（著）
Kindle 価格 500 円
2012 年個展写真 1 5 点。沖縄本島や離島が舞台での蝶の写真 1 0 点と、風景写真 5 点で構成。

足元の宝石箱 Kindle 版
黒柳昌樹（著）
Kindle 価格 500 円
背景のボケを生かした昆虫の接写写真が足元の宝石箱のように色鮮やかにデジタルで蘇ります。それぞれの写真に宝石になぞらえたタイトルとコメント付。

ご購入はQRコードでAmazonへ

「写真を撮る」ということは「現実を芸術へ昇華させていく過程」

佐川 憲一郎 さん

相川の桜

沓掛峠の山桜

撮影テーマ

「写真を撮る」ということは「現実＝目の前に繰り広げられる自然の営み＝を芸術へ昇華させていく過程」と捉え、風景写真の撮影に取り組んでいます。

入江泰吉氏が「写真映像とは、作者自身の人間性を反映する鏡にほかならないのである」と言っています。「自分が感動して撮った写真でなければ作品を見る人を感動させることはできない」という思いでシャッターを切っています。

入江氏には高校 2 年生の時、修学旅行で訪れた薬師寺の境内でお会いしているのです。（詳細はいつかご紹介できればと思っています）

撮影エリアは、地元の茨城県県北地域、栃木（那須塩原･日光）、福島（裏磐梯）、山形（飯豊･小国、月山山麓）秋田（鳥海山）です。

最近はデジタルカメラの性能がアップしてきて、ほぼデジタルでの撮影になっています。フィルムではできずデジタルにしかできない撮影にも取り組んでいます。星景写真や望遠鏡に装着しての星雲・星団の撮影はデジタルだから可能になっています。

常設ギャラリーについて

教員として 37 年勤め、退職を機に工房となる家を一軒新築。写真や絵画を展示できるプライベートギャラリーや妻のアトリエ、そして暗室を備えた写真事務所を設けました。もちろんキッチンや浴室・トイレも備え、母屋とは別に生活できるようにしました。写真や絵画は作品がどんどん増えてしまうので作品を収蔵できる倉庫（ ガレージ付き）も同時期に建てました。田舎なので敷地はいくらでもありますので。なお、写真パネルも自作しています。サイズは A3 ノビ～A2 それぞれ 40 枚ほどあり、個展開催時に活用しています。

蝉の羽化日光

尾瀬

尾瀬

マミヤカメラユーザーを訪ねて。

佐川 憲一郎（さがわ けんいちろう）

1951 年生まれ。茨城県在住。MamiyaRB67proS を使いはじめて早 32 年がたちます。中判サイズの画質の良さと機動性がよいので風景写真の撮影はほとんどがマミヤでした。（過去形は、今はデジカメがメインなので）

マミヤカメラとの出会いは、『昭和 62 年秋　Mamiya RB67proS、セコール 127 ミリ購入』と撮影日誌に記載されています。翌年にはセコール 90 ミリと 360 ミリを購入しました。大いに活躍したカメラとレンズたちです。マミヤによる作品で･隔月刊『風景写真』には最優秀 1 回、優秀 1 回、準優秀 2 回入賞しました。・月桂冠日本の美「花鳥風月」フォトコンテスト優秀賞・二科茨城写真展入選数度。　「日本リンホフクラブ」所属。

花園渓谷

高萩　朝暘の海岸

来年の写真展について

2019 年 1 月 25 日から 31 日まで、富士フォトギャラリー銀座で個展「煌めく天地の灯＝長時間露光の軌跡＝」を開催します。3 年前からサブカメラをメインカメラとして撮った夜景や星景写真の写真展を毎年開催してきました。その中の作品 14 点を展示します。都内の夕景・夜景を長時間露光で撮影した作品が中心になります。茨城県内の作品ももちろん展示します。

工場夜景いわき

小田代ヶ原

佐川さんご自慢のギャラリーとオフィス

個展「煌めく天地の灯」案内ハガキ

その他の写真について

中判カメラ（マミヤ、ハッセルブラッド）大判カメラ（リンホフ）を使用して風景写真を撮っております。ポジフィルムはベルビア、モノクロフィルムはフジのアクロスが無くなったため、イルフォードを使用しています。

長距離になる撮影行は VOLVO（500 ～ 600 ㎞の長距離運転でも疲れません）で出かけます。深夜に出かけ、夜明け前後に撮影地に着くようにしています。夜には帰宅する日帰り撮影が多いです。

デジタルカメラを手にして、比較明合成ソフトを利用しての星景写真や蛍の写真も撮っています。これらは、写真表現の幅を広げますが、私にとっては主流ではありません。メインは風景写真です。撮影前夜は、風景との新たな出会いに期待が膨らみます。

次年度以降、風景写真を中心にした個展（タイトルは決めており、シリーズで 4 ～ 5 回）を開催しようと計画しています。

「時代を映す雑誌作りを心掛けたい。」
佐々木秀人日本カメラ編集長に聞く。

佐々木 秀人（ささき ひでと）
1972 年長野県生まれ。株式会社日本カメラ社 日本カメラ編集長。趣味は旅行、街角スナップ撮影、拘りのカメラ収集。

1948 年に前進の光芸社を設立し「アマチュア写真叢書」を発行。1950 年に「日本カメラ」に誌名変更。その後 1953 年に現在の社名に変更して、今年創業 70 年を迎えた老舗の雑誌社・日本カメラ社。その中核となる本誌「日本カメラ」の編集長に一昨年 11 月に就任した佐々木秀人さんに編集方針、写真、カメラへの思い入れ、更にはプライベートなことまで直撃インタビューしました。（木戸）

日本カメラ社を訪ねるには、地下鉄・人形町駅又は水天宮駅で下車してほんの数分歩くだけです。このエリアには水天宮、甘酒横丁、明治座などの人気観光スポットも点在し、更には明治・大正創業の各種老舗も多く、人並みが絶えないエリアでもあります。そんな昔の風情と下町の雰囲気が漂う町の一角に、日本カメラ社の多少年季の入った？（失礼！）6 階建ての自社ビルが在ります。ここから写真・カメラの多くの情報を発信し続けています。

株式会社日本カメラ社
東京都中央区人形町 1-5-15
03-3666-4321（代）

Q：カメラ・写真との出会い？日本カメラ社との出会いは？

中学生の時に、父親の持っていたトヨカフレックス二眼レフを覗いたり触ったりしていた記憶があります。大学は写真とは無縁の経済学部のフツーの学生でしたが、2〜3 年生の時にアンティークものが好きだった影響もあり、中古カメラ店に行って金属感やモノとしての良さを気に入りペトリ V6 と言うカメラを購入したのが最初です。きっと中学生の時の二眼レフ経験が刷り込まれていたのかもしれませんね。ただ、この時は写真を撮ると言うことでは無く、あくまでメカに魅力を感じての入手でした。

大学を卒業し一般企業に就職しましたが、仕事に何となく違和感を感じていた時、新聞で日本カメラ社が求人広告を出しているのを知り、電話連絡して、履歴書を送り、採用となりました。この時の気持ちは、(1) カメラって良いな (2) 出版社に興味があったことからでしたが、配属先は広告部でした。※この時に私と何回か会ったことがあると佐々木さんは言いますが、すっかり私の記憶が希薄になっていて・・・。

当時、本誌では中古カメラ店の広告が 60 ページもあり中古カメラ屋さんの担当もしていました。仕事でのべつ中古カメラ店に行っていると、カメラが潜在的に好きなこともあって火が付いちゃったのですね。先ずは、オリンパス OM10 を購入して、仕事の度にカメラを提げて出掛け、スナップ写真を写す興味も出て来ました。

また、中古カメラ店を廻っていると店主とも仲が良くなり、カメラの知識も相当に覚える様になりました。丁度、1990 年後半から 2000 年初頭は中古カメラブームでもあったので、カメラ関連の書籍も隅から隅まで読んで知識を蓄えて行きました。メカ好きになって営業をしていると、次には編集の仕事もしたくなり、上司に相談し 30 歳の時に編集部に異動することが出来ました。編集部員は大きく分けて、(1) 写真が好き (2) カメラが好きの２タイプで、私は後者のタイプですね。メカ担当として新製品やカメラ記者クラブの仕事をし、その後は副編集長になりました。

Q：新編集長としての編集方針について？

編集長になったのは 2017 年の１月号からなので、実際には 2016 年の 11 月からです。編集長として最初に考えたのは、日本カメラ誌の元々の特長とする「口絵〜特集〜メカ記事〜ハウツー〜月例〜カメラ店広告」の流れを継承することにより「原点回帰」することでした。特に、口絵を廃止しているカメラ雑誌もある中、作家や一般からの写真持ち込みは継続したいと思いましたし、「写真好き」「メカ好き」「銀塩好き」「デジタル好き」と多様な読者さんに喜ばれるような本作りをする事を目指して行きたいとも思いました。日本カメラを見て「写真は楽しい」と思ってもらったら最高ですよね。

編集会議は毎月行いますが、1 年間のスケジュールをザックリ決めてから、会議では次々号（1 ヶ月前）の詳細内容を決めています。毎月編集に追われている状態ですね。

Q：編集体勢と特色は？

現在、本誌の編集部員は４名と少なく、ムックから 2 人のお手伝いをもらって編集作業に当たっています。ですから編集長といっても全体を見るだけでは無くて、毎号特集の何本かをこなさなければならない状態です。また、特色としてはフィニッシュワークは別ですが、編集がちょっとした写真ならば自社スタジオで撮って、文章を書いて、自分でインデザイン（書籍編集には欠かせない DTP ソフト）を使ってラフ原稿まで仕上げることをしています。これはどこのカメラ雑誌でも行っていないと思いますが、日本カメラ社ではかなり以前からこの方法を取り入れていました。

Q：今現在欲しいカメラはありますか？

約 100 台弱のカメラを保有していてカメラコレクターであることを自覚しています。中判のブロニカ等も在りますが、デジタルカメラの黎明期の名機にも大変興味を持ってエッポックメーキング的なカメラは自宅の棚に飾っています。これらのカメラは写すためのものでは無く、コレクションです。ただ、現在はあまり欲しいカメラは無くなりましたね。昔のように胸がときめかなくなりましたね・・・（仕事が忙しいのですかね）。

Q：フィルムからデジタルになって？

1999 年にニコン D1、2001 年にキャノン EOS-1D が発売され、デジタルの波は急速に押し寄せてきました。パソコンはあまり得意ではありませんでしたが、カメラ誌の編集としてはデジタルを覚えるしかありませんでした。急激な変化でしたが何とか移行出来ました。読者も今では大半がデジタルに移行しているようですが、1 年ほど前にコンテストに web 部門を設けインターネットで応募できるようになったのも時代の現れかもしれません。

ただ、銀塩フィルムの根強いファンもいて、銀塩記事もある程度のボリュームを割いています。他ではやらない「全フィルム撮り比べ」などの特集予定もあります。

また、OEM も含めフィルムの種類も多くなって銀塩ブームが来るのではとの予感もあります。若い人がフィルムで撮ってインスタにアップしたりするのが最近のトレンドでもあるようです。マミヤ 7 Ⅱなどの中判フィルムカメラの中古価格は神機で大上昇していますよ。少しでも大きな 6x7cm のフォーマットでレンズ交換が出来るのが魅力になっているようです。若い人のフィルム人気が上昇しているのは間違いないと思っています。

Q：読者の変化について？

デジタルの時代になっても昔からの読者は健在です。詳しい読者リサーチ等はしていませんが、50〜70 代の読者が多いと感じますが、若い人や女性が増えていることも事実で、月例に学生の部を昨年から新設しました。

Q：写真を見ることについて？

私の写真の見方は「普通に良いと思った写真が良い写真！」が基本です。写真を趣味にしていない普通の人が見ても「良いな！」と思うような写真を掲載して行きたいと思います。後は、鮮やかで明るい写真を意図的に使うこともあります。

Q：出版不況や書店の減少について？

どんな雑誌でも発行部数が減少しているのは事実だと思います。書店で購入していた方々は書店の減少で入手に苦労していると思います。部数はそんなに大きく伸びないまでも、地道に本を売ることを重視して行きたいと思います。一つが年間購読者を増やすことで年間購読のメリットを伝えたり日本カメラグッズを用意したりしています。読者が本を買いに行くのでは無くて確実に届くようになることですね。

そして編集部が外に出て行って、それこそ手売りする事も重要で、努力の積み重ねだと思います。特に編集長になって地方に行く機会が増え、余計に本を売る大切さを痛感しています。

また、無視できないのが Amazon で、かなりの書籍を販売してもらう様になりました。

Q：日本カメラの今後？

大切にしているのは本の売り上げが上がることもありますが、何年か先に日本カメラを見返して、その時代が分かる様な本作りを意識しています。時代を映すいろいろな写真・記事を今後も紹介して行きます。また、昔から付き合いのある作家さんもいますが、若い作家さんを育てて行くことも重要だと考えています。

月刊日本カメラ 定期購読のご案内

《定期購読５つのメリット》
(1) 2 年間で約 2,500 円お得！
(2) 送料無料です。
(3) 毎号確実にあなたのもとへお届けします。
(4) 特別定価号も通常と同じ価格になります。
(5) 事前に購読の更新日をお知らせします。

日本カメラオリジナルクロス プレゼント!!

定期購読・料金表

半年間（6冊）定期購読料	5,200円（税込・送料当社負担）
1年間（12冊）定期購読料	10,400円（税込・送料当社負担）
2年間（24冊）定期購読料	19,000円（税込・送料当社負担）

■お問い合せ先　日本カメラ社営業部　電話　03-3639-3681

日本カメラ社・樋口肇一社長の社長室にもお邪魔してカシャッと 1 枚。

社長室には日本カメラ創刊号から最新号までが蔵書されています。

日本カメラ本誌編集部。書類で見えませんが、一番奥が佐々木編集長の机です。

MOOK 編集部の部屋ですが、沢山の資料に囲まれていました。

広告部（営業部）の部屋は流石に整理・整頓されています。

1 階奥にある自社スタジオはストロボが常備され、かなり本格的な写真が撮れそうです。

大判カメラのすすめ

その 13

今回の「大判カメラのすすめ」は撮影のノウハウではありません。ズバリ中古大判カメラの購入についてです。それも大判カメラの雄とされるリンホフカメラの購入について、詳しいチェックポイントを紹介したいと思います。

「大判カメラのすすめ」は「その 12」までを大判カメラの撮影方法（アオリ撮影含）についてをまとめてきましたが、今回は実際に大判カメラを購入する時の注意点等についてまとめたいと思います。それも比較的手の届きやすい人気の中古大判カメラ・リンホフを例に説明したいと思います。是非参考にして頂き、夢の大判カメラを手に入れてください。（木戸）

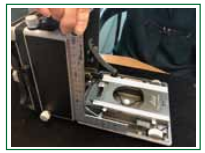
【チェック１：信頼できる中古カメラ店を探す】

中古カメラ店は沢山ありますが、大判カメラを得意と分野として扱っているお店は少ないと思います。特に大判カメラは専門知識が無ければ扱えないほどです。これは通常のカメラだとボディもレンズもアクセサリーも同一メーカーで製造しているのでシステムを理解しやすいのですが、大判カメラの場合、ボディ、レンズやボード、ホルダー、露出計、ルーペなど皆相違するメーカーが製造していますので、これらを全て理解しているお店で購入することが必須になると思います。「このボディには何ミリのレンズが使えるの？」や「中判フィルムホルダーは使えるの？」等の質問に即座に答えられる様なお店を探してください。イコールお店の中古在庫に何台もの大判カメラが在ることが一つの目安になるかもしれません。悪い例ですが、大判カメラを扱ったことの無い中古カメラ店で購入したお客さんが数ヶ月ほどして異常に気付きましたが、カメラ店も知らなかったことで悪意が無く、結局余計な修理代が掛かってしまったという例があります。

【チェック２：カメラ全体をよく見る】

傷の付かない台等の上で、畳んだ状態の大判カメラをよく見回してください。この場合、大判カメラは箱の状態と同じなので、正面、後面、側面 (2)、上面、底面の 6 面をよく見てキズや亀裂の有無をチェックしてください。また、底部の三脚穴周辺を見ると、そのカメラがどれくらい使われていたか、ある程度判断することも可能です。

【チェック３：ベッドを開いて 90 度を確認する】



90 度をチェックできる直角定規（千円位から市販されています）又は厚めの三角定規等を開いたベッド左右とボディに当てて直角であるかをチェックします。この時に数度の狂いがあると、撮影中にベッドを開いた状態で何かしらとぶつけてしまったことが予測出来ます。尚、右側が 90 度で左側が狂っているなどもありますので必ず両方を計ってください。中古カメラ店でもこの様なチェックはしていませんので、後々に問題になる事項かもしれません。

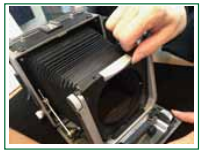
【チェック４：トラックレールを最大限引き出し突端をつまんでガタを確認する】

リンホフの場合は 2 段レールになっていますので、必ず 2 段とも引き出し、突端部をつまんでガタを確認してください。大きなガタがあるときは、何かにぶつけたことも考えられますし、小さなガタではグリスが無くなってグリスアップが必要になる場合があります。

【チェック５：レンズ装着状態で蛇腹を最大限引き出しバック部から光線漏れを確認する】

ピントガラス枠を外した状態で、蛇腹を最大限引き伸ばし明るい光源の下、蛇腹にピンホール等が無いかチェックします。また、上手くチェック出来なかった場合は、カメラ購入直後に蛇腹を伸長した状態でフィルムホルダーをセットし、引き板を抜き太陽の下に数分置いて光線漏れが無いかをチェックしてください。カメラ購入後に標準レンズしか使わずに撮影をしていて何ら問題が無かったが、望遠レンズを購入し撮影してから初めて光線漏れに気付くというケースがよくあります。購入したばかりならカメラ店でも補償対処してくれますが、月日が経つと保証の対象外になってしまいます。

【チェック６：レンズスタンダードのガタが無いかを確認する】



全てのアオリロックをした状態で、レンズスタンダード上部をつまみガタが無いかを確認します。もしガタが在ると最悪レンズスタンダード底部の亀裂等も考えられます。また、前ユーザーのレンズ交換時にボディ側への一方的な力を加える癖で、レンズスタンダードが若干倒れている場合もあります（チルトアップ状態）。頻繁に行うレンズ交換はレンズスタンダードにストレスを与えない様に優しく丁寧に行いましょう。

【チェック７：最後に一言】

上記のチェックは、大判カメラの最高峰とされるリンホフの新品状態を想定して行っているものです。大判カメラの中には、リンホフほどの精度の無いカメラや、木製カメラなど、殆ど自分で平行・垂直等をださなければならないものがあります。中古カメラはあくまで中古ですので、その分価格が安くなっています。是非、そのことを理解してご自身で納得される大判カメラを手に入れてください。

今年も恒例の

「銀杏舞う東大構内撮影会」

開催します。

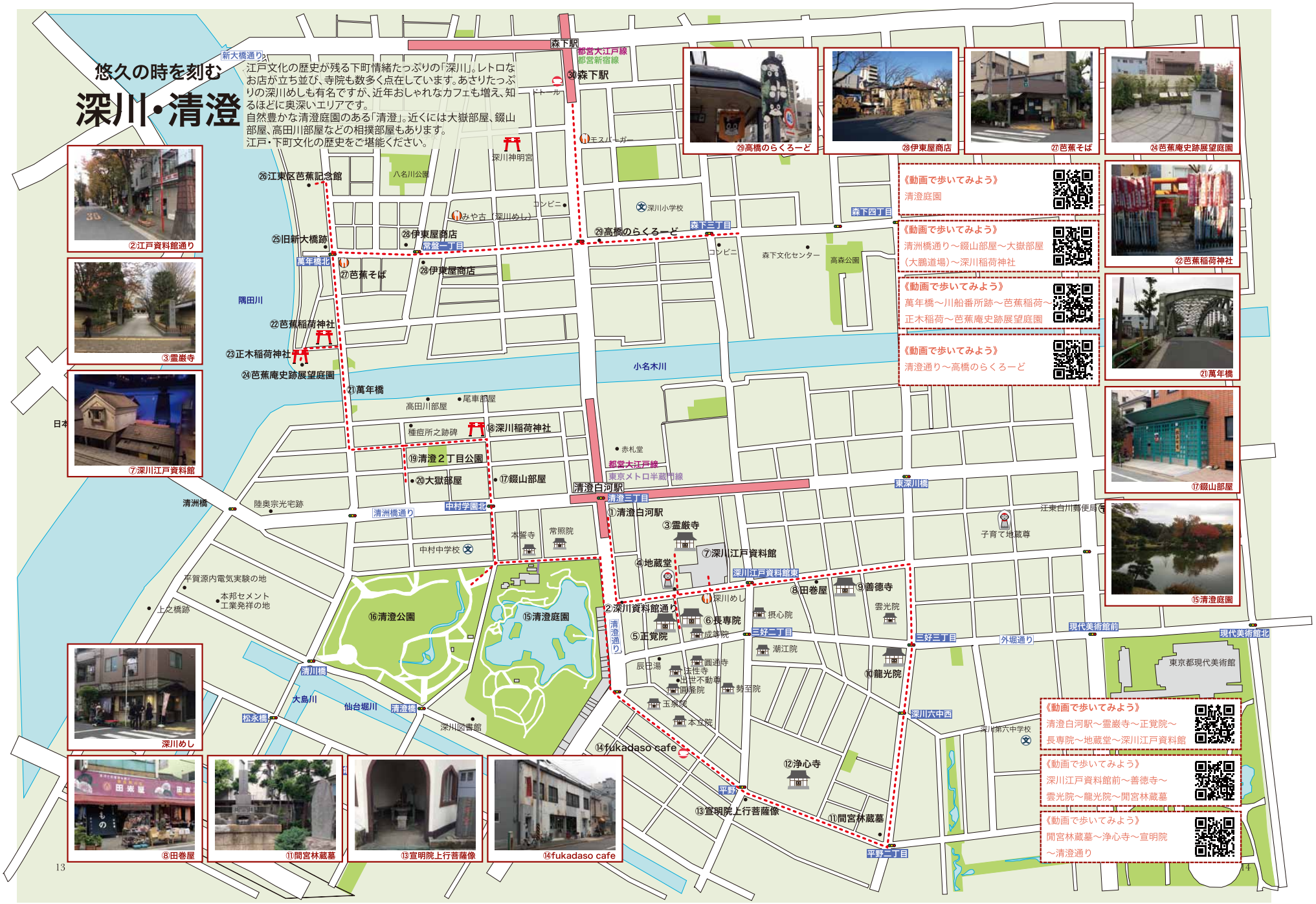
早いもので今年も残すところあと2ヶ月になってしまいました。と言うことは年末恒例の「銀杏舞う東大構内撮影会」の時期になったことになります。１１月末から１２月上旬までワイズから徒歩５分にある東京大学キャンパスの銀杏は一斉に黄色に染まり、銀杏の葉が舞い踊り「黄色の幻想的な世界」が出現するのです。東大構内には明治に建てられた文化財的な講堂や校舎、更に旧加賀藩時代からの自然豊かな森や池が点在し被写体としても最高です。これに黄色の世界がプラスされるのですから期待が膨らむばかりです。ワイズでは12月1日（土）に撮影会を開催致しますので、会員の皆様是非ご参加ください。

- 開催日　１２月1日（土）１１時～１５時
- 撮影地　東京大学構内
- 集　合　ワイズクリエイト
- 案　内　木戸嘉一（ワイズクリエイト）
- 参加費　無料（案内地図付き）
- 申　込　事前に参加申込みをください。
- 備　考　大判、中判、デジタル等お好みのカメラでご参加ください。　【雨天中止】

悠久の時を刻む

深川・清澄

江戸文化の歴史が残る下町情緒たっぷりの「深川」。レトロなお店が立ち並び、寺院も数多く点在しています。あさりたっぷりの深川めしも有名ですが、近年おしゃれなカフェも増え、知るほどに奥深いエリアです。
自然豊かな清澄庭園のある「清澄」。近くには大嶽部屋、錣山部屋、高田川部屋などの相撲部屋もあります。
江戸・下町文化の歴史をご堪能ください。



②江戸資料館通り

③霊巌寺

⑦深川江戸資料館

深川めし

⑧田巻屋

⑪閒宮林蔵墓

⑬宣明院上行菩薩像

⑭fukadaso cafe

㉙高橋のらくろーど

㉘伊東屋商店

㉗芭蕉そば

㉔芭蕉庵史跡展望庭園

《動画で歩いてみよう》
清澄庭園

《動画で歩いてみよう》
清洲橋通り～錣山部屋～大嶽部屋
（大鵬道場）～深川稲荷神社

《動画で歩いてみよう》
萬年橋～川船番所跡～芭蕉稲荷～
正木稲荷～芭蕉庵史跡展望庭園

《動画で歩いてみよう》
清澄通り～高橋のらくろーど

㉒芭蕉稲荷神社

㉑萬年橋

⑰錣山部屋

⑮清澄庭園

《動画で歩いてみよう》
清澄白河駅～霊巌寺～正覚院～
長専院～地蔵堂～深川江戸資料館

《動画で歩いてみよう》
深川江戸資料館前～善德寺～
雲光院～龍光院～閒宮林蔵墓

《動画で歩いてみよう》
閒宮林蔵墓～浄心寺～宣明院
～清澄通り